

講演名：Japanese Rap and the Radical Rethinking of the U.S.-Japan Framework

(日本のヒップホップから捉える日米関係の再考察)

講演者：アーサー・ミッチェル (Dr. Arthur Mitchell),

アメリカ・マカレスター大学准教授 (Associate Professor, Macalester College, the U.S.)

日時：2024 年 6 月 27 日 (木) 19:00-20:30

会場：明治大学駿河台キャンパス、リバティータワー14 階 1144 教室

使用言語：日本語、英語

アーサー・ミッチェル氏は新進気鋭の現代日本文学・文化の研究者である。近年は近代日本社会における「人種」概念の成立と展開という新たな研究テーマに取り組まれている。ミッチェル氏は今回の講演においてヒップホップ（ラップミュージック）を取り上げ、ヒップホップの楽曲にはその発祥地であるアメリカだけでなく、アメリカのヒップホップを受け入れた日本においても人種の問題が取り上げられていることを指摘された。

講演は以下の内容から構成された。

1. アメリカに於けるヒップホップ（ラップミュージック）の発祥と歴史

：3 人のラッパーの楽曲が紹介され、アメリカにおいてどのようにヒップホップ（ラップミュージック）が成立し、いかにして展開してきたのかが概括された。

2. Critical Race Theory における「人種」をめぐる議論

：従来は生物学的に人間の身体に存在すると考えられていた「人種」という概念は、社会における人々の支配・被支配の権力構造の中で支配層にある者たちが他者を支配したり搾取したりするための正当化の論理として作られたとする Critical Race Theory の研究の内容が紹介された。

3. 日本のラッパーⅢ Bosstino のラップ歌詞から捉える人種と階級の意識

：日本のヒップホップ界で活躍するラッパーⅢ Bosstino に関して、北海道出身でアメリカのヒップホップの影響を受けて自らの楽曲を創作するようになった経緯などの来歴が紹介された。そして、実際の楽曲の歌詞が分析され、その中に描かれている人種と階級の意識が炙り出された。

現代世界では人種に関わる様々な問題が各地で起きており、人種に関わる議論は現代社会を理解する上で欠かせないテーマである。それにもかかわらず、日本社会では人種は馴染みの薄いテーマ

系として捉えられてきた。これに対して、ミッチェル氏は現代日本社会において若者を中心に人気の音楽ジャンルであるヒップホップを通して、人種が日本社会にいかに深く関わっているのかを示してくださった。

講演は学生や社会人など50人近くの参加者を得て行われた。ミッチェル氏は講演の中でも参加者とのやりとりを行う時間を頻繁に設けてくださり、日本語と英語の両方を用いて丁寧な説明を行なってくださった。そのおかげで、講演に続いて行われた質疑応答では参加者から積極的な質問やコメントが寄せられ、講演は盛況のうちに終わった。





